登録コード:MH129200　開講年度:2026

授業科目区分	専攻専門科目　必修
科目名	小児発達健康論【20M以降】 Outline of Pediatric Development
担当教員	中山　佳子　　佐藤　奈保・川田　悠介・平林　優子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年　前期　火曜・３時限
単位数、講義室	１単位　保健学科３１１講義室　遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇔ 授業の達成目標 MH20カリ・保健 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。 ⇔ 小児の成長発達について身体的、心理的、社会的側面を理解すること。小児各期の日常生活に必要な支援を理解すること。 MH25カリ・保健・看護，MH23カリ・保健・看護 ≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し，さまざまな状況で活用できる。 ⇔ 発達科学、生涯発達理論、家族関係理論、精神分析的な発達理論などを基礎として、小児の身体的、心理的、社会的側面を理解すること。小児各期の日常生活に必要な支援と技術を理解すること。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して，地域・国際的な視点から，科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と，課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。 ⇔ 子どもの事故、学童思春期の健康問題、小児虐待支援など、小児に生じる健康課題や、院内学級の役割について学び、自らの考えを述べることができる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿
全学横断特別教育プログラム	
授業概要	本授業では、講義、演習により、小児の基本的な理解に重要な小児の成長・発達について、身体的、心理的、社会的な側面、生活の自立や変化、家族機能と発達を学びます。これらについて、発達科学、生涯発達理論、家族関係理論、精神分析的な発達理論などを通して理解します。また小児の各期に応じた日常生活とその援助方法、事故防止、育児環境について学びます。 本授業は、１年次に学んだ「生化学」「栄養学」「遺伝と病気」「人体の構造と機能Ⅰ（解剖学）」「人体の構造と機能Ⅱ（生理学）」の知識を前提とし、２年次後半の「小児発達看護学概論」と合わせて、３年次の「小児発達看護方法論」「小児発達看護学実習」に結び付く小児看護学の基盤となる知識・技術を獲得します。 本授業は、担当教員の医療機関等での実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画に関連する内容が含まれます。
授業計画	看護学専攻/２年 第１回（4月14日）　小児の成長発達概要　（佐藤） 第２回（4月21日）　小児の成長発達・形態・生理的特徴①　（中山） 第３回（4月28日）　小児の成長発達：形態・生理的特徴②　（中山） 第４回（5月12日）　小児の成長発達：形態・生理的特徴③　（中山） 第５回（5月19日）　小児の成長発達：認知・言語・社会性の発達①　（佐藤） 第６回（5月26日）　小児の成長発達・認知・言語・社会性の発達②　（佐藤） 第７回（6月 2日）　健康な小児の日常生活①　（佐藤） 第８回（6月 9日）　子どもの事故防止　（川田） 第９回（6月16日）　健康な小児の日常生活②　（佐藤） 第10回（6月23日）　新生児スクリーニング・予防接種　（中山） 第11回（6月30日）　演習：身体の計測・安全ケア　（佐藤・川田） 第12回（7月 7日）　演習小テスト/学童思春期の健康問題　（川田） 第13回（7月14日）　小児の成長発達・形態的特徴と健康問題（特別講義・中山） 第14回（7月21日）　児童虐待とケア　（佐藤） 第15回（7月28日）　院内学級の紹介・授業アンケート　（特別講義・佐藤） 第16回（8月 4日）　期末試験
授業の進め方	本授業は教科書、スライド、配布資料に基づいて進めます。能動学習による理解の進化を目指すため、授業内での質疑応答、リアクションペーパーへの自己の考えの表明、グループでのディスカッション、一部実技を伴う演習等を実施します。授業へのリアクションペーパー提出は、授業内容に応じて求めます（毎回ではありません）。
テキスト，教材，参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①,医学書院
成績評価の方法	演習小テスト(20点満点）、期末試験（100点満点）、授業課題・リアクションペーパー提出により総括的に評価します。 成績は全体を100点満点とし、期末試験を90%、演習小テストを5%、授業課題・リアクションペーパー5%で換算して計算します。リアクションペーパーの提出がない場合は、-1点/回とします。
成績評価の基準	総合点については、60－69点　可　70－79点良　80－89点優　90－100点秀とします。

成績評価の基準	筆記試験（演習小テスト、期末試験）は、行動目標に関連した設問に対する選択式回答の正誤だけでなく、記述式回答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した内容と同レベルの問題が解ければ、「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ、「卓越している」とします。 課題については、授業で提示された課題について現状を説明し課題に答えていれば「合格水準にある」、説得性のある説明の上で課題に答えていれば「やや上にある」、データを利用し説ユニークな説明で課題に答えていれば「かなり上にある」、複数の現象を組み合わせて説得性のある説明の上課題に答えていれば「卓越している」
事前事後学習の内容	事前学習：授業の終わりに次回・次々回までに学習すべき内容があれば説明します。 事後学習：授業の始めに前回の授業の要点について質問をすることがありますので、準備して臨んでください。 演習については、事前に学習内容を提示します。事前学習されたものとして進めますので、必ず学習して臨んでください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（１時間×15回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	小児看護の基礎となる講義です。健康な子どもの特徴をしっかり学んで下さい。 相談： 中山佳子：　研究室（中校舎4階）e-mail:ynaka@shinshu-u.ac.jp 佐藤奈保：　研究室（中校舎4階）e-mail:naho_sato@shinshu-u.ac.jp 川田悠介：　研究室（中校舎4階）e-mail:yskawada@shinshu-u.ac.jp